

【事業概要】

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、医療と介護が必要な高齢者の増加が見込まれている。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「在宅医療」と「在宅介護」を多職種連携により一体的に提供できる地域基盤づくりを推進する。

【目的】

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域において、切れ目なく医療と介護を一体的に提供することができる体制を構築する。また、住民や地域の医療・介護関係者と地域のめざすべき姿を共有し、医療機関と介護事業所等の関係者との協働・連携を推進する。

地域支援事業（包括的支援事業(社会保障充実分)）

	令和5年度実績(見込)	令和6年度計画(案)
地域の医療・介護資源の把握及び地域資源情報の有効活用 【くれ福祉のお役立ちサイト(しっとってクレ)】	<p>【くれ福祉のお役立ちサイト(しっとってクレ)市民サイトの公開】 令和5年8月10日 市民サイト 2,479件→2,495件 関係者サイト 2,599件→2,620件 アカウント発行数 194件→210件 (令和6年2月1日現在)</p> <p>【システム機能強化】《資料3》 「検索結果」並び順の変更機能の追加 「ログイン画面」の改善</p>	<p>【くれ福祉のお役立ちサイト(しっとってクレ)の有効活用】 閲覧数の増加 掲載情報の登録・更新 関係機関との連携ツールとしての有効活用 生活支援体制整備の促進</p>
在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	<p>【在宅医療・介護連携推進検討委員会】 年2回 実施 10月(Web+集合ハイブリッド会議), 3月(対面会議)</p> <p>【関係機関へのヒアリング】 地域医療連携室 2箇所 高齢者相談室(地域包括支援センター) 8箇所</p>	<p>【在宅医療・介護連携推進検討委員会】 年2回 実施予定</p> <p>【関係機関との連携・連動】 高齢者相談室(地域包括支援センター)に配置された包括的支援推進員と連携・連動し、日常生活圏域における在宅医療・介護連携の課題を抽出し、地域の実情に応じた対応策の検討を行う。</p>
在宅医療・介護連携に関する相談支援	<p>【相談支援】《資料4》 在宅医療・介護連携推進コーディネーターによる相談実績11件(令和6年2月1日現在)</p> <p>【調査】 呉市在宅医療・介護連携に関する相談窓口の評価アンケート調査 (結果) 回答数58(回答率6.16%) (課題) 相談窓口の認知度は低く、医療・介護関係者を対象とした相談窓口であることが周知できていない。</p>	<p>【相談支援の継続】 在宅医療・介護連携推進コーディネーターによる相談支援</p> <p>【相談窓口の認知度向上及び利用促進の対応策】 ①周知活動 ・在宅医療・介護連携推進コーディネーターの役割について、研修会等で改めて周知を行う。 ・相談事例集積及び呉市ホームページへの掲載等によるフィードバックを行う。 ②相談支援業務の発展 出張相談</p>
地域住民への普及啓発 ・ACP支援 ・在宅医療の推進	<p>【私の心づもり・人生の彩ノート普及啓発】 配布数: 6,123冊 講話等の開催: 39回 参加者数: 1,233人(令和6年2月1日現在)</p> <p>【きらきら終活フェアでの普及啓発】 実施日: 令和5年11月11日(土) 来場者: 135人</p> <p>【市民と医療・介護関係者のための合同公開講座】 《資料5》 最期まで自分らしく生きるために～知っておこう!在宅医療・介護と人生会議のこと～ 日時: 令和6年3月3日(日) 対象: 市民と医療・介護等関係者 申込: 171人(一般市民127人, 医療・介護関係者44人)</p>	<p>【私の心づもり・人生の彩ノート普及啓発】 継続</p> <p>【市民公開講座】 対象: 一般市民 テーマ: ACP, 在宅医療の推進</p> <p>【命の宝箱(仮)の制作】 第2回多職種連携研修会で意見としてあがった「命の宝箱(仮)」の制作について、企画検討する。</p>
医療・介護関係者の情報共有の支援、研修の開催支援	<p>【医療・介護関係者の情報共有の支援】 医療・介護連携ネットワークチームの発足 2チーム(中央地域・安芸灘地域) それぞれ、第1回ネットワーク会議を開催し、入院時の連携や情報共有について協議した。</p> <p>【医療・介護関係者の研修等】 「呉共済病院 地域医療連携懇談会」にて呉市の人生会議に対する取り組み、について発表 実施日: 令和5年6月22日(木) 参加者: 205人 「第2回在宅療養を支えるスタッフのための多職種連携研修会」 実施日: 令和5年9月9日(土) 参加者: 72人</p>	<p>【医療・介護関係者の情報共有の支援】 中央地域と安芸灘地域のネットワークチームをモデルに日常生活圏域にチームを立ち上げ、地域の実情に応じた情報共有支援や連携の仕組みづくりについて検討する。</p> <p>【医療・介護関係者の研修等】 ・地域包括ケア病棟と多職種連携を考える研修会を開催する。 ・在宅療養を支えるスタッフのための多職種連携研修会を開催する。 (テーマ) ・入退院支援 ・日常の療養支援 ・急変時の対応 ・看取り ・ACP支援</p>